

全国大学書道学会

会報

13

平成27年(2015)
1月31日発行
全国大学書道学会

埼玉大会の御礼と今後の方針

理事長 横田 恭三

平成二十六年全国大学書道学会大会は、十月十一日(土)、埼玉大学教育学部で盛大に開催されました。第二日目の本学会大会は、総会・研究発表・記念講演ならびに拓本鑑賞・懇親会と、充実した一日となりました。大会の設営や運営にご尽力下さった大橋修一先生をはじめ、ご協力いただいた文教大学の豊口和士先生、両校の学生諸君にも厚く御礼申し上げます。研究発表は、十三人の発表者がそれぞれ日ごろの研究成果を精いっぱい展開し、さらに質疑応答も活発に行われるなど極めて有意義でした。

大会記念講演では、東京・神田にある静雅堂の廣瀬保雄社長より「昭和の書道雑誌出版事情」をお話いただきました。往時の逸事を披露され、さらに珠玉の拓本などを展示・解説下さりましたこと、心より御礼申し上げます。さて、本年度より本学会の理事長を仰せつかりました。埼玉大会の総会時にすでにお話し申し上げましたが、以下①～⑤の事項を今後の活動方針に据えました。これは学会の一層の発展と会員相互の親睦を深めることを目的としたもので、実施可能な事項から順次着手して参ります。

① 会報の年二回発行

② 学会ホームページの作成と運用

③ 「昭和時代における政治家の書の研究」(仮題)の製作と出版

④ 学会誌の保存・記録(初期の本学会活動の調査)

⑤ 高等学校採用試験(書道)の未実施都道府県の実態調査

①「会報年二回発行」については、今回の会報より実行に移しました。②のホームページについては、年度内に準備を終え、明年度より開設できるように進めています。③の製作と出版については、政治家への書の啓蒙活動は言うまでもなく、政治家に対して本学会ならびに書教育に関心を持ってもらうためのものです。これについては鈴木晴彦常任理事をチーフとし、次年度の大会で具体的な方針が打ち出せるよう検討を始めています。④「学会誌の保存・記録」については、『大学書道研究』を現在のA4版に改訂する以前から出されていた案件ですが、実行には至りませんでした。昨年九月、東賢司理事より学会初期の活動を調査したいというお話をいただきました。そこで東理事をチーフとし、学会のプロジェクトとして立ち上げたものです。⑤「採用試験未実施の実態調査」は、より多くの高校生に書に親しむ場を提供するだけでなく、書を志す若い研究者に対して働く場を確保したいという側面もあります。これは学会の将来を左右する極めて重要なことだと思われれます。

日本の伝統文化を大切に、次の世代へ伝えていくことは、我々学会員のみならず、国策としても重要なことでしょう。昨年行われた「書写・書道教育の充実」活動では九四万人もの署名を集めて文科大臣に提出されました。一方で、日展や全日展などの問題が示すように、昨今の書道界を取り巻く環境が厳しいことも事実です。そうした状況を踏まえながら、本学会として出来ることは何か、将来に向けて改善すべき点があれば積極的に進めて参りたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

全国大学書道学会大会を終えて

埼玉大学 大橋 修一

十月十日、十一日、十二日と大学三学会が埼玉で開催されました。十日の日本教育大学協会書道教育部門会は、浦和のワシントンホテルで開かれ、十一日の全国大学書道学会と、十二日の全国大学書写書道教育学会は、埼玉大学で行われました。全国大学書道学会は主に大学の教員や大学院生が参加、九時二十分から総会が、十時三十分から十二時四十五分まで、二つの会場に別れて八件の研究発表が行われ、午後も同様に二つの会場に別れて十三時三十分から十六時まで五件の発表が行われました。今年は、昨年にも増して、計十三件の発表、それも大学や高校の教員、大学院生とともに若い方々の発表が目立ち、新しい息吹を感じさせる学会でした。

さて十六時二十分からは、大会記念講演会。親子二代に亘って書の出版に携われてこられた清雅堂の廣瀬保雄氏に「昭和の書道雑誌出版事情」という演題でご講演を頂きました。同時に場を移動して出版の底本となった旧拓の龍門二十点をはじめ、南宋拓の九成宮醴泉銘や晋祠銘、さらに明拓の整本の張猛龍碑や剪装本の二本、また初拓の肅府本の淳化閣帖などの名品を展示して頂きました。

同時に会員の書作展も、別館のコモ棟で展示、四十七件の出品作を頂きました。

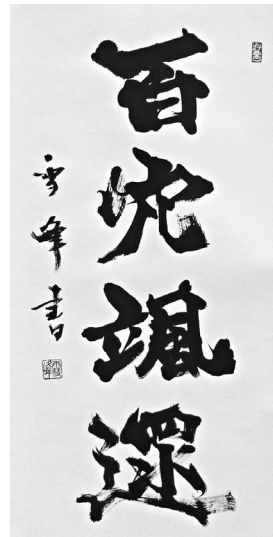
その後の懇親会も七十名ほどの参加を得、和やかな中に行われました。みなさんの協力で無事終了することができ、感謝申し上げます。また文教大の豊口先生やお手伝いの学生のみなさんにも併せてご協力感謝申し上げます。



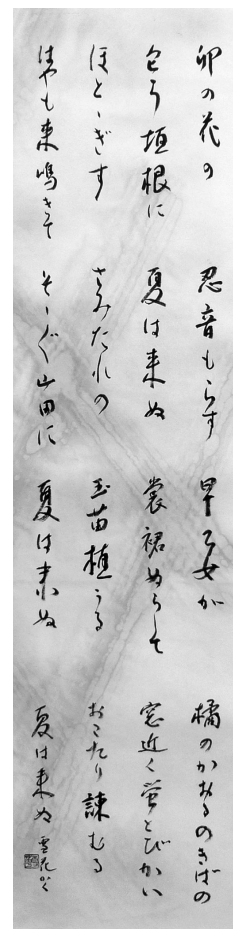
平成二十六年度
全国大学書道学会会員書作展

会期 平成二十六年十月十日(金)～十二日(日)
会場 埼玉大学教育学部

1 昔韻 青木雪峰(常葉大学)



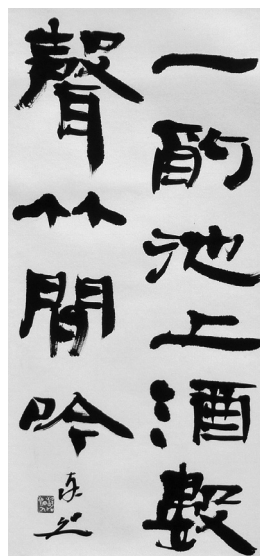
2 卯の花 青木雪花(武蔵野大学)



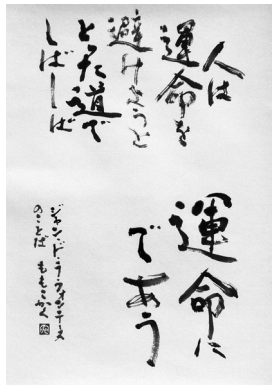
3 蕾 青山浩之(横浜国立大学)



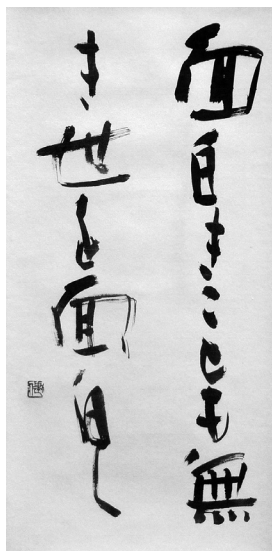
4 白居易句 赤平泰処(大正大学)



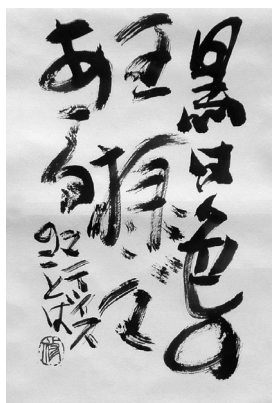
5 ジャン・ド・ラ・フォンテーヌの言葉 五十嵐ももこ(都立荻窪高等学校)



6 面白きことも無き世を面白く 石井健(東京学芸大学)



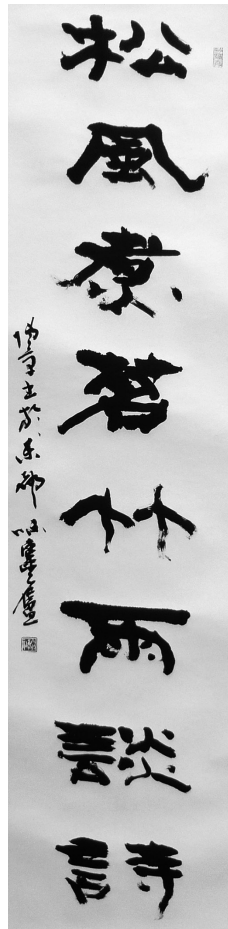
7 マタイスの言葉 大橋修一(埼玉大学)



8 必精潔正直 大住仁堂（徳島科学技術高等学校）



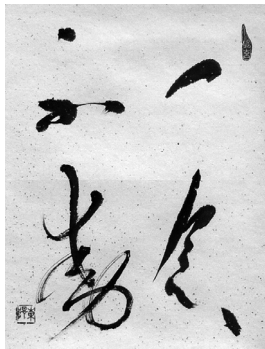
10 茶趣 小川博章（淑徳大学）



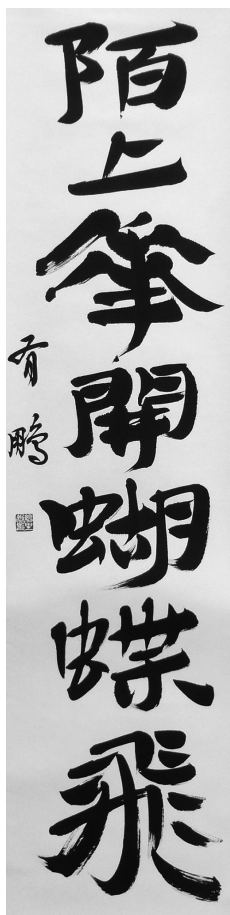
12 八木重吉詩 加藤堆繫（東京学芸大学）



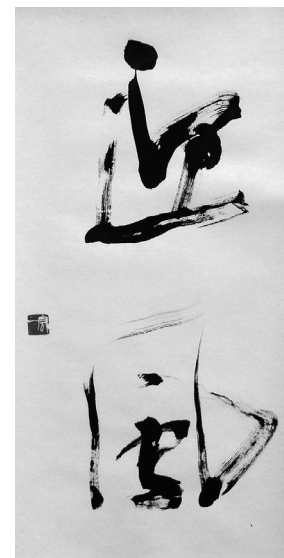
13 一念不動 加藤東陽（東京学芸大学名誉教授）



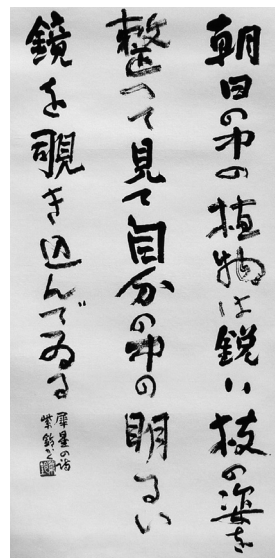
14 東坡詩 亀田有鵬（実践女子大学）



9 迎風 岡野屋宏一（桐朋女子中・高等学校）



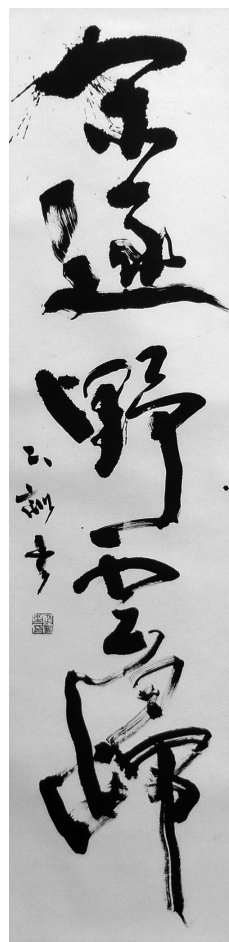
11 室生犀星詩 柿木原紫鈴（相模女子大学）



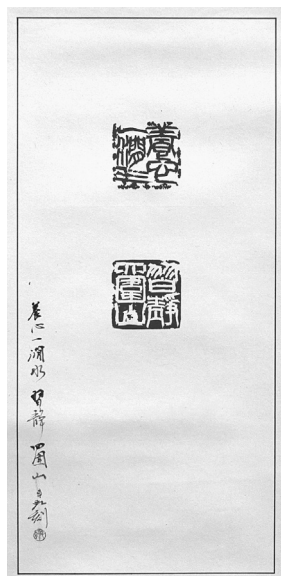
15 韓非子語
木村大澤（愛知教育大学）



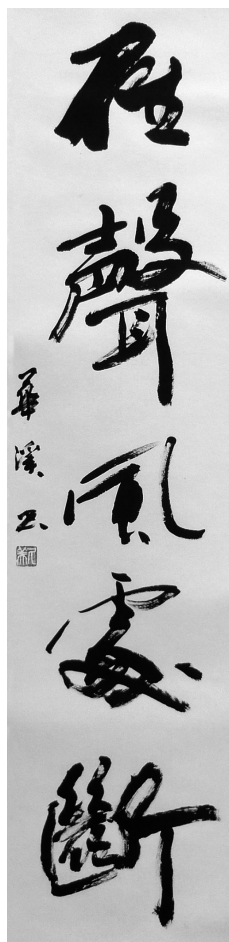
17 閑逐野雲歸 見城正訓（静岡大学）



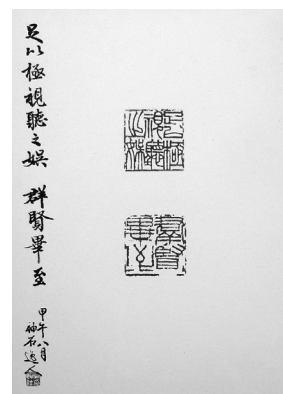
19 養心一澗水、習静四圍山 小西斗虹（香川大学）



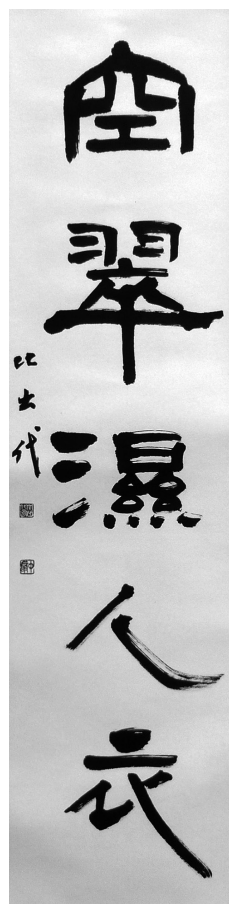
21 雁声風處斷 齋木華溪（茨城大学）



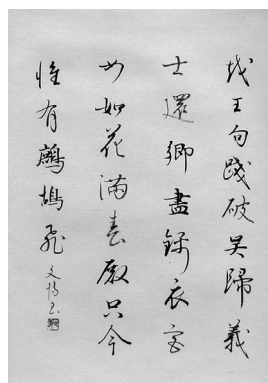
16 蘭亭序 計良袖石（相模女子大学）



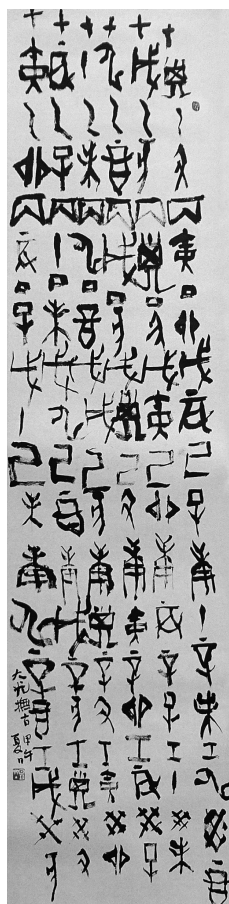
18 空翠湿人衣 小林比出代（信州大学）



20 越中覽古 清水文博（新潟大学）



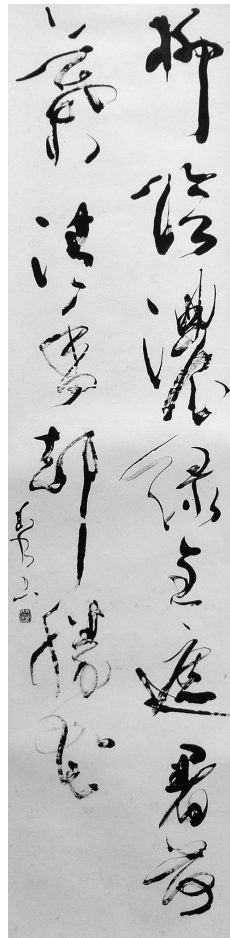
22 神線作品14-1 神野大光（熊本大学）



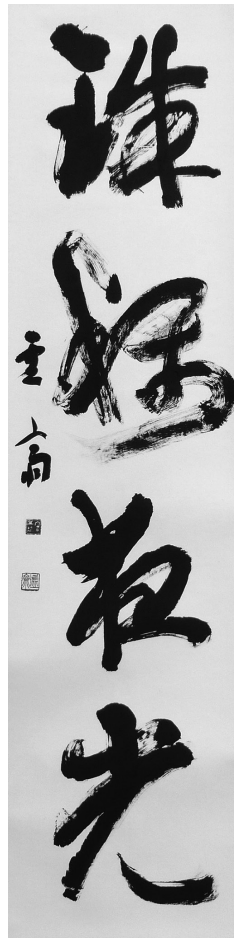
23 峰 杉崎光波（静岡大学）



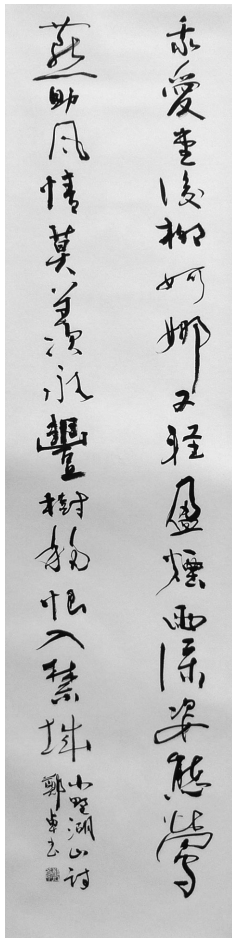
25 柳陰濃緑全遮暑、荷葉清香却勝花 竹之内幽水（佐賀大学）



27 珠稱夜光 塚本虚齋（和洋女子大学）



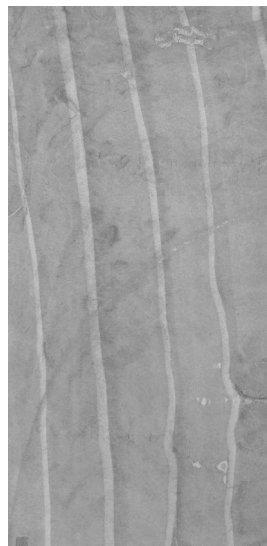
29 十二愛詩其八 鄭卓（了徳寺大学）



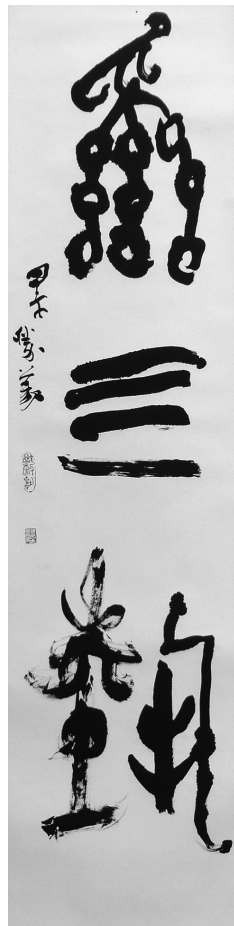
24 隨時隨書無不樂 杉山勇人（鎌倉女子大学）



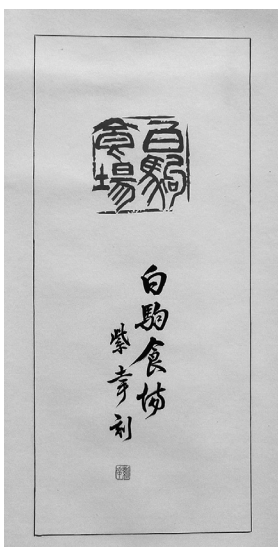
26 墨と金と銀の線 田畑理恵（常磐大学）



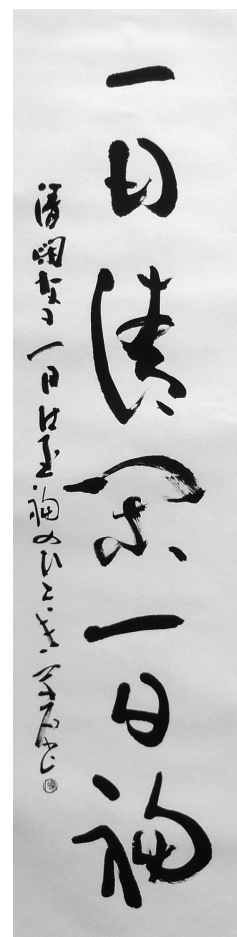
28 四藝を繋ぐ 角田勝久（新潟大学）



30 白駒食場 津村紫幸（千葉大学）



31 七言句詩の一 土橋草石（比治山大学）



32 いのり 豊口和土（文教大学）



33 吉福 長野竹軒（東京学芸大学）



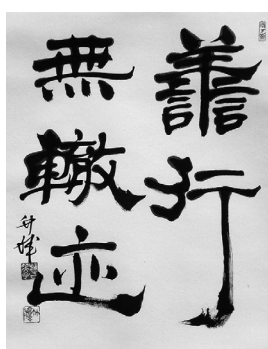
34 安貧 野中吟雪（岐阜女子大学）



35 渾元 服部一啓（福岡教育大学）



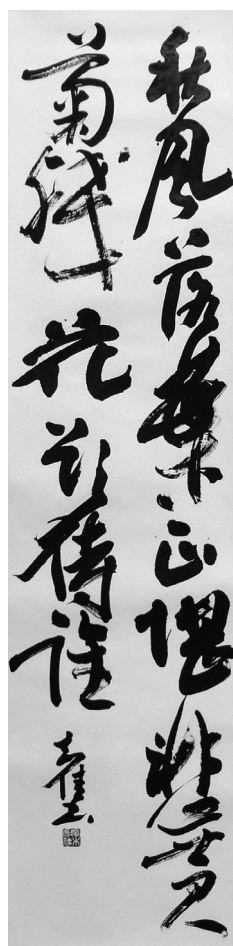
36 善行には轍迹無し 樋口竹城（千葉大学）



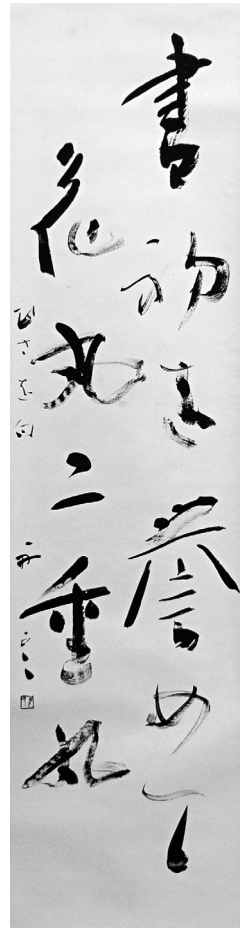
37 天行健 平形精逸（常葉大学）



38 感懷 廣木知佳（新潟大学大学院）



39 山崎ひさを句 廣瀬舟雲（武蔵野大学）



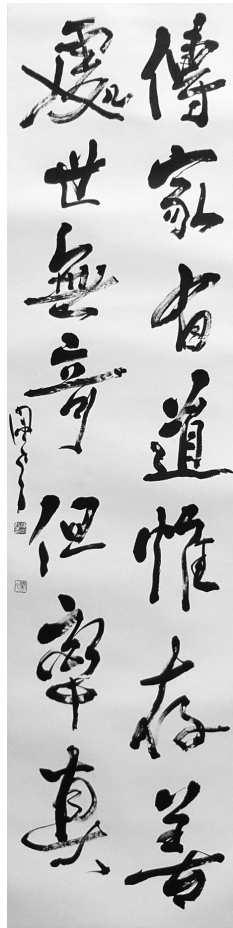
42 万葉歌 松尾 治（埼玉県立越谷北高等学校）



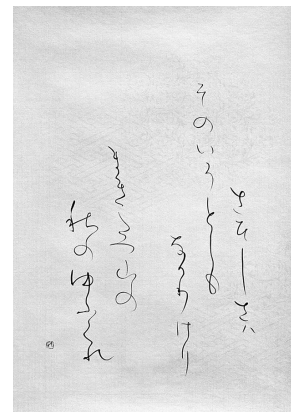
44 攀登 松本貴子（大東文化大学）



46 行書七言二句 横田閑雲（跡見学園女子大学）



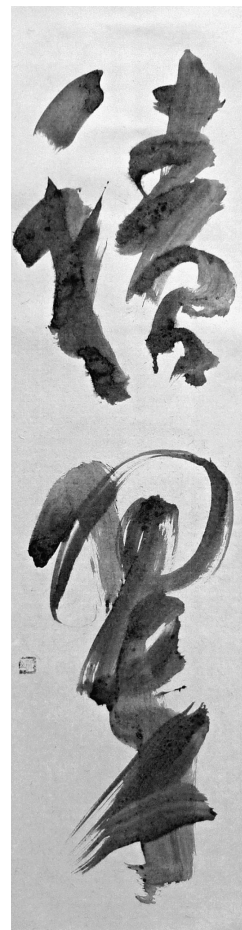
40 寂蓮の歌 藤瀬礼子（了徳寺大学）



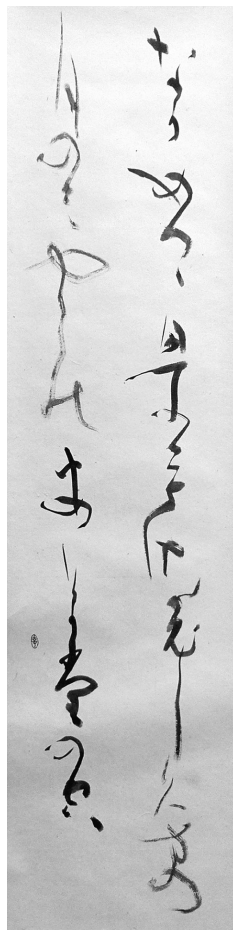
43 快樂無已 森上洋光（四国大学）



45 積翠 森哲之（広島文教女子大学）



47 あけがたの空 和田蒼龍（東京大学史料編纂所）



41 楽 本田容子（盛岡大学）

